

琉球大学学術リポジトリ

沖縄における野菜の束とその価格について (1)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 友利, 知子, Tomori, Tomoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21128

沖縄における野菜の束と その価格について(1)

先に(農家便り1965年7月号, No.116)沖縄で日常よく使われている食品の概量について書きましたので今回は野菜について調べた結果をのべ、ここで一緒に考えてみたいと思います。なお、この調査は去年の5月、家政学科の学生(3年次)が行なったものです。

調査は28軒の小売店(大半が首里でしたが)について3日間、野菜の種類と販売単位それに重量と金額について調べました。

まず、野菜の種類は、大きい店で平均20種、小さい店で15種類の野菜が売られています。次に、その販売単位ですが、葉菜類はキャベツと結球白菜、それにレタスを除くとあとは全部束売りで、根菜類は人参とゴボウが束と斤売り(輸入ものは大体斤売り)大根(みのわせ)が束と一本売りでなかでも以前に比べだんだん一本売りというのが多くなって来ているようです。一方、果菜類はそのほとんどが斤売りで、さやいんげん丈が束売りでした。また最近の傾向をみておきますと、買う側の便利さを考えてか、または品の悪いのを安く仕入れて傷んだ部分を除きいいところ丈を千切りしたり、またはお客に余り品物を選ばせたくないという意図からか、だんだんビニール袋入りというのが店先に並ぶようになりました。

この野菜の束売りとか一本売りは消費者にとっては得でしょうか、それとも損なのでしょうか。

1本売りという場合は、束売りのものより確かに品物はいいようですが、1本といいましても重量がみなまちまちで、例えば大根(みのわせ)の場合、小さいので300gから大きいものになると1kgまたはそれ以上もありその上、小さいのは小売店間の価格差が大きく、従って100g当りの価格も高くなります。その点大きいものは品質が悪くなければ価格差も小さく、安いということになります。それを第1表(1)~(8)でみて頂きましょう。

表1 小売店間における野菜の重量と価格差
(1) 大根

1本の重量 (g)	価 格 (¢)	小売店軒数 (軒)	100g 価格 (¢)
1100	10	2	0.9
1000	6	1	0.6
900	10	1	1.1
800	10	1	1.3
660	8	2	1.2
600	5	2	0.8
600	6	4	1.0
600	7	3	1.2
550	5	2	1.0
500	8	1	1.6
450	4	1	1.0
400	5	1	1.3
300	8	2	2.7
平均 640	7		1.1

(2) ゴボウ

1束の重量 (g)	価 格 (¢)	小売店軒数 (軒)	100g 価格 (¢)
1800	20	1	1.1
1800	30	1	1.7
1600	30	4	1.9
1500	30	1	2.0
1200	23	1	1.9
1200	30	2	2.5
1100	30	2	2.6
900	25	1	2.8
900	30	1	3.8
600	16	1	2.7
600	20	1	4.1
600	25	2	4.2
600	40	1	6.7
平均1100	28		2.8

(3) 山東菜

1束の重量	価 格	小売店軒数	100g 価格
(g)	(¢)	(軒)	
970	8	1	0.8
760	6	1	0.8
600	8	1	1.3
600	9	1	1.5
600	12	2	2.0
500	7	1	1.4
450	8	1	1.7
430	5	1	1.1
300	5	1	1.7
300	8	1	2.7
平均 560	8		1.5

(4) からしな

1束の重量	価 格	小売店軒数	100g 価格
(g)	(¢)	(軒)	(¢)
600	7	2	1.2
600	8	1	1.3
600	9	1	1.5
500	5	1	1.0
500	6	1	1.2
500	8	1	1.6
500	9	1	1.8
300	5	1	1.7
平均 520	7		1.4

(5) ネギ

1束の重量	価 格	小売店軒数	100g 価格
g	(¢)	(軒)	
300	5	1	1.7
260	5	1	1.9
250	5	3	2.0
230	5	2	2.2
220	5	2	2.3
210	5	1	2.4
200	5	4	2.5
190	5	1	2.6
150	5	2	3.3
120	5	1	4.2
平均 210	5		2.5

(6) チシャ

1束の重量	価 格	小売店軒数	100g 価格
(g)	(¢)	(軒)	
650	5	1	0.8
600	5	2	0.8
500	5	2	1.0
450	5	1	1.1
430	6	1	1.4
400	6	1	1.5
300	5	2	1.7
300	6	1	2.0
平均 460	5.0		1.3

(7) ニラ

1束の重量	価 格	小売店軒数	100g 価格
(g)	(¢)	(軒)	(¢)
270	5	1	1.9
200	4	2	2.0
200	5	7	2.5
平均 207	5.0		2.3

(8) ようさい

1束の重量	価 格	小売店軒数	100g 価格
(g)	(¢)	(軒)	(¢)
650	7	1	1.1
600	7	1	1.2
500	7	1	1.4
500	8	1	1.6
450	7	2	1.6
450	9	1	2.0
400	5	1	1.3
平均 500	7.0		1.5

また、東売りの場合、その中に品の悪いのが混ざることよく経験するところですが、この場合も大きさがまちまちで、例えばゴボウについてみますと、600gから1.8kgのものまであり、先の大根の例のように束が小さいと小売店間の価格差が大きく、従って100g当り価格も高くつきます。

(第1表(2)、参照)葉菜類はそのほとんどが東売りですが、以前は端境期や品物が少なめと思うと束がいくらかでも小さくなったものですが、1963年に冷害と干ばつがあつて野菜の価格が暴騰したのをきっかけにそれ以来束の規格が次のようにおちついたのであります。

	出盛の期	はぎかい期
葉菜類(束)	500g	300g
ネギ、ニラ(〃)	200g	120g~160g
ヨウサイ(〃)	500g	
サヤインゲン(〃)	500g	
人参(〃)	600g	
ゴボウ(〃)	1000g~1500g	

(農連調べ)

この調査でも、不断草と大根葉は他の野菜より束が大きく、800gに600gありましたが、あとは1束約500gでした。なかでも山東菜とからし菜は束の大きさ、価格共、小売店間の開きがかなりあるようですがそれは産地や銘柄が多いからでしょうか、それとも代替性のある野菜だけに需要が大きく供給とのバランスがなかなかつきかねるのでしょうか…？ それに反し、ネギやニラはその両方とも小売店間の開きはみられませんでしたが、チシャは束の大きさに開きがあるようです。

以前は、束の大きさが変動したのに反し今日ではこのように価格の変動が大きいようです。

最後に野菜の価格について、まづ野菜の100g当り価格(第2表(1)~(3))から安い野菜を種類別にみていきますと、根菜類が一番安く、大根の100g当り1.1¢からゴボウの2.8¢で平均1.4¢、次いで葉菜類の1.9¢で、不断草の0.6¢からレタスの3.3¢、最も高いのが果菜類で平均2.9¢、そのなかで冬瓜が安く1.3¢ 苦瓜は5.7¢もかかります。これを価格の点からみますと 不断草、大根葉、キャベツ、人参、冬瓜は100g当り1.5¢以内で買えるので安い野菜といえましょう、それに反し、結球白菜、ニラ、ネギ、ゴボウ、トマト、ナス、さやい

第2表 (1)根菜類の価格

種類	小売店における 100g当り平均価格 (¢)
大根	1.1
人参	1.2
ゴボウ	2.8
平均	1.4

(2) 葉菜類の価格

種類	小売店における 100g当り平均価格 (¢)
不断草	0.6
大根葉	0.8
キャベツ	1.0
チシャ	1.3
からし菜	1.4
山東菜	1.5
体菜	1.5
ハウレン草	2.0
結球白菜	2.2
ニラ	2.3
ネギ	2.5
レタス	3.3
平均	1.9

(3) 果菜類の価格

種類	小売店における 100g当り平均価格
冬瓜	1.3
玉ネギ	1.9
キュウリ	1.9
南瓜	2.0
トマト	2.5
ナス	2.7
さやいんげん	2.8
ピーマン	3.8
へちま	4.2
苦瓜	5.7
平均	2.9

んげんは100g買うのに2.0¢から3.0¢もし、レタス、ピーマン、へちま、苦瓜は3.0¢から5.0¢以上出さなければ買えません。このように5月は葉菜類は一般に安いのですが一方果菜類ははしりなので高くなります。

そこで私たちが1日野菜を250g摂るとしますと少なくとも1人3.5¢はかけなければならないと思いますが、皆さんは野菜代にいくらかけていらっしゃるでしょうか。

高い高い…という前に一度は考えてみたい問題だと思います。
(友利 知子)